



ROCK PAINT

タフロック 7500級 低温硬化型高耐候 ポリエステル樹脂系粉体塗料

特徴

- ヤニおよびPRTR指定物質を低減できます
- 耐候性が良好で屋外、建材等の用途に適しています
- 焼き付け温度の低温化が可能 -20°C CO2削減
- ツヤ有りから5分艶消しまで対応

用途

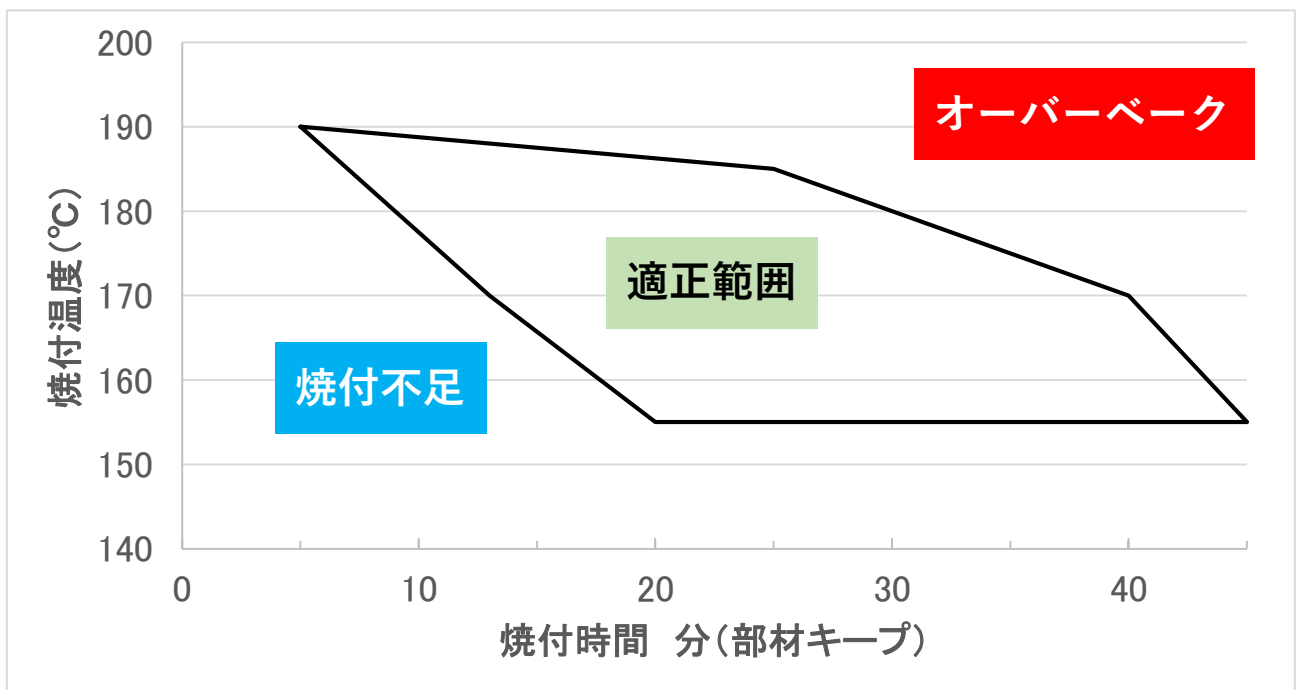
- 屋外建材
- 配電盤・発電機
- 農業機械、建機
- 土木資材
- 電機資材
- 車両部品

追加オプション

- 脱泡性付与
- 抗菌性付与
- サテン模様付与
- 遮熱性付与

塗装仕様 ツヤ有り ホワイト	
鋼材	SPCC、SECC、SS鋼板
処理	脱脂洗浄
	リン酸亜鉛処理
塗装	静電塗装 コロナ トリボ
焼き付け条件	$160^{\circ}\text{C} \times 20$ 分
膜厚	$60 \pm 10\mu\text{m}$
使用量	$115\text{g}/\text{m}^2$ 塗着効率90%仮定

焼付条件



◆塗膜性能 ホワイトN95

試験項目	試験方法	全艶	艶消し
鏡面光沢度	60° 鏡面光沢度	90以上	50-80
付着性	1mm×100マス碁盤目 JIS K 5600-5-6	分類0	分類0
鉛筆硬度	鉛筆引っかき値 JIS K 5600-5-4	F	2H
耐衝撃性	デュポン式Φ1/2×500g JIS K 5600-5-3	50cm	30cm以上
耐アルカリ性	5%炭酸ソーダ 40°C×100h	異常なし	異常なし
耐酸性	5%硫酸 20°C×100h	異常なし	異常なし
耐湿熱性	JIS K 5600-7-2 50°C 95%RH×240h	異常なし	異常なし
耐塩水噴霧性	JIS K 5600-7-1 5%塩水×35°C×240h テープ剥離	3mm以内	3mm以内
促進耐候性	キセノンWOM 1000h Δ E 光沢保持率	1.0以内 80%以上	1.0以内 80%以上
試験片作成条件			
TP	SPCC-SD リン酸亜鉛鋼板 0.8×70×150mm		
焼き付け条件	160°C×20分(部材温度)		

※上記結果は弊社社内試験に基づく結果であり、保証値ではありません

◇各種鋼材に対する付着性 JIS K 5600 5-6

耐久性については別途ご確認の上ご使用ください

	SPCC 無処理	SPCC リン酸 亜鉛処理	SPCC リン酸 鉄処理	ボンデ 鋼板	アルミ A-1050	ステンレス SUS304	ステンレス SUS430
付着性	○	○	○	○	○	○	○

※取り扱いの注意: 御使用前には必ずラベル表記、MSDSを参照ください

～工業用塗料～

粉体塗料の使用上の注意

塗料使用時及び塗膜となってから、使用方法、保管方法等により、下記の異常が発生する可能性があることから、取扱いに注意してください。

●塗装前処理

脱脂 …………… 塗装前処理(脱脂,化成皮膜処理,水洗等)が不十分の場合、性能低下を起こす可能性があります。
被塗物の放置 …………… 塗装後、焼付乾燥を行わずに放置した場合、結露や異物の付着に起因した硬化不良、性能低下及び外観不良を起こす可能性があります。

●使用前準備

塗料投入時の注意 …………… 塗料を塗装タンクに投入する場合は、一旦、袋から取り出し軽く揉み解し、堅い塊がないことを確認の上で使用してください。
部材確認 …………… 塗装部材と塗装仕様が合っているか事前に確認してください。

●塗装時

規定膜厚について …………… 塗装膜厚が薄い場合、性能低下に加えスケ、ユズ肌等の外観不良を生じる可能性があります。
塗り重ね回数 …………… 過度に塗り重ねを行った場合、剥離、割れ等を引き起こす可能性があります。
再塗装 …………… 粉体塗膜を再塗装する場合は静電反発等が発生しやすいため、塗装電圧を下げアースの確保を必ず行ってください。また、必ず旧塗膜に研磨処理を行ってください。

●焼付乾燥時

焼きあま …………… 焼付乾燥が不十分な場合、塗膜性能が著しく低下する可能性があります。
オーバーベイク …………… エポポリ塗料の場合、オーバーベイク時に極端な黄変が発生することがあります。
ガステッキング …………… 焼付乾燥時の炉内雰囲気(ガス)の影響で仕上がりに影響が出る可能性があります。

●塗料の保管

保管方法 …………… 30℃以下の風通しの良い冷暗所で保管してください。
ブロッキング …………… 高温又多湿の場所に保管すると、粉同士が付着し塊り状になる可能性があります。

●塗料

艶消し(エポポリ) …………… 焼付条件により、規定の光沢が得られない可能性があります。
ジंकリッチパウダー …………… 金属成分を多く含有しているため、吸収や漏洩に特に注意が必要であり、保護具の着用等の安全対策を十分に行ってください。

●回収粉

回収粉の使用 …………… 回収粉を推奨量(推奨使用量:10%以下)を超えて使用した場合、塗装作業性の低下が起こる可能性があります。

●その他

コンタミ …………… 他種粉体塗料、他社粉体塗料が混入した場合、ハジキ、混色等が発生する場合があります。

●塗装品

有機溶剤について …………… 塗膜は有機溶剤によって剥離や色艶等の外観に異常をきたす場合があるため、取扱いに注意が必要です。
使用環境 …………… 塩分、酸、アルカリ等の雰囲気下で使用した場合、塗膜の剥離をはじめ様々な異常が発生する可能性があります。
傷、磨耗について …………… 濃色系の場合、擦り傷等の外観不良が見え易い場合があるため、取扱いに注意が必要です。
製品梱包について …………… 梱包材の種類によっては、密着跡、色変化、剥離等が発生する可能性があります。
ワックスについて …………… 塗膜にワックスをかける場合、種類によっては色移り、色落ち、傷付き、艶変化を起こす可能性があります。
テープやラベルについて …………… 塗膜に長期間テープやラベルを貼り付けた場合、剥がす際に跡や色変化、または剥離を起こす可能性があります。
色移り …………… ①経年で塗膜が劣化すると色移りする可能性があります。
②表面を擦った場合、塗膜の削れ、色移りが発生する可能性があります。